

Emergency Watch



神戸こども初期急病センター



2013年1月受診者数：3279人

訴え

- 1. 発熱 : 2188人 (1814人)
- 2. 咳 : 1471人 (297人)
- 3. 鼻汁 : 1100人 (20人)
- 4. 嘔吐 : 669人 (310人)
- 5. 腹痛 : 356人 (145人)

(カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数)

疾患頻度

- 1. 急性上気道炎・咽頭炎 : 1002人
- 2. インフルエンザ : 695人
- 3. 感染性胃腸炎 : 538人
- 4. 気管支炎・肺炎 : 179人
- 5. 気管支喘息・喘息性気管支炎 : 164人

今月のワンポイント！

2月となり、神戸でも雪の降る日が珍しくなくなってきましたね。1月の受診者数は3279人で前月よりも400人の増加でした。毎月受診者数が増加しており、本格的に冬の様相となってまいりました。

2013年1月に受診された患者さんの訴えとして最も多かったのは発熱で2188人でした。疾患頻度として、感染性胃腸炎は538人で3位となり少しずつ流行が収まりつつあります。前月まで上位に入っていなかったインフルエンザが2位となり、本格的にインフルエンザの流行が訪れた印象です。各地の小中学校でも学級閉鎖が相次いでいます。当センターでインフルエンザ検査を施行した1082人中、A型が521人でB型が30人でした。国立感染症研究所の報告では、今年はインフルエンザAH3亜型(A香港型)が最も多いようです。しかし、全国的にみると2月に入ってからインフルエンザ患者の報告は減少している(成人も含めた統計)ようですので、神戸でも落ち着いてくるといいのですが、、、。

ここで、インフルエンザ感染時の出席停止期間について少しお話します。

学校保健安全施行規則でインフルエンザの出席停止期間の基準は、以前は「解熱後2日」と定めていましたが、現在は「**解熱後2日**」かつ「**発症後5日(幼児にあっては3日)**」と変更されました。これは治療薬の効果で解熱後2日を過ぎてもウイルスの感染力が持続していることに基づいた措置です。

2月になり大学入学試験、期末テスト、卒業式の練習など、重要な行事が増えてくる季節ですので、インフルエンザの予防は必須です。インフルエンザの感染対策としてはご存じのとおり、飛沫感染対策としての咳エチケット、接触感染対策としての手指衛生(手洗い)が重要となります。雪解けも真近となってきていますので、残り僅かな冬を元気に乗り切りましょう。

